

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

技術情報12号について（送付）

「ウリ科作物連作ほ場におけるメロン黄化えそウイルスの防除対策」を下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

記

1 概要

現在、冬春キュウリでメロン黄化えそウイルスおよび媒介虫のミナミキイロアザミウマが発生している。今後、ウイルス発生ほ場にキュウリやスイカなどのウリ科作物が連作されると、次作でもウイルスが発生する恐れがあるため、以下の防除対策を徹底する。

（次作での発生が懸念される主な作型）

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
作型Ⅰ		キュウリ			→			キュウリ		
作型Ⅱ		キュウリ			→			スイカ		

2 メロン黄化えそウイルスの発生状況

- （1）メロン黄化えそウイルスは、県内では平成16年11月に熊本・鹿本地域の冬春キュウリではじめて発生が確認された。17年度作の夏秋キュウリでは新たに宇城・菊池地域に発生が認められ、発生地域、ほ場数が増加している。現在も、熊本・宇城・鹿本地域の冬春キュウリで発生が続いており、1月中旬に病害虫防除所が行った調査では、10ほ場中5ほ場で発生が確認された。
- （2）本ウイルスは、平成17年6月に鹿本地域のメロン、9月に熊本地域のメロンでも確認された。スイカでの発生はまだ確認されていないが、発生する恐れがある。
- （3）1月中旬に行った調査（10ほ場調査）において、キュウリ葉には媒介虫の寄生は認められなかったが（平年の寄生葉率3.1%）、12月中～下旬に設置した青色粘着トラップには4ほ場中2ほ場で媒介虫の誘殺が認められた。

3 防除対策（次作の感染防止対策として）

- （1）栽培終了後は、施設周辺及び内部の除草を行ったあと、株を引き抜き2週間密閉してから片づける。さらに定植まで1週間あける。次作の定植まで期間がない場合は、株の引き抜き後加温機を利用して20℃以上で10日間密閉処理を行い、土中の蛹を羽化させてから片づける。
- （2）発生ほ場での育苗は絶対にしない。媒介虫の防除は育苗期から徹底し、本ほに寄生病苗を持ち込まないようにする。また定植時には粒剤を施用する。
- （3）育苗床、本ほには、青色粘着トラップを設置し、媒介虫の早期発見に努め、薬剤防除は発生初期から行う。なお、薬剤は薬剤抵抗性の発達を避けるため系統の異なる薬剤をローテーション使用する。
- （4）ほ場内をよく見回り、発病株の早期発見に努める。発病株かどうか判断が困難な場合は、病害虫防除所か最寄りの農業普及指導課に連絡する。
- （5）発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取りほ場外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。なお、抜き取る前に薬剤防除を行い、寄生している媒介虫が分散しないようにする。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
担当：前田、古賀 TEL：096-248-6490